

授業科目名	先端医療技術トレーニング実習 (Advanced medical skills training)		
対象学年	医学科3年生	単位数	なし
科目責任者	さかい のりお 酒井 規雄	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
科目 コーディネーター	はっとり みのる 服部 稔	所属	医学教育センター (内線 3031)
		メール	m-hattori@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	<p>本科目は、90分の講義コマ2コマを続け1回の時間を180分として行う。4つのシミュレータを使用する。項目は以下の通りである。</p> <p>1) 内視鏡外科手術シミュレータ(LAPmentor)によるFLS(Fundamentals of laparoscopic surgery skill)体験 内視鏡外科手術シミュレータを用いて、内視鏡外科手術独特の操作を体験し、内視鏡外科手術のメリット・デメリットについて考察する。</p> <p>2) 内視鏡外科手術シミュレータ(LAP VR)による手術体験 内視鏡外科手術シミュレータを用いて、主治医(鉗子操作)とスコピスト(カメラ操作)の役割の違いを体験する。</p> <p>3) ドライボックスによる内視鏡か縫合結紮体験 医療現場で用いられている縫合糸を使用し、内視鏡下縫合結紮を体験する</p> <p>4) ロボット支援手術シミュレータ(dVtrainer)によるロボット支援手術体験 ロボット支援手術シミュレータを用いて、ロボット支援手術のメリット・デメリットを体験を通じて学ぶ。</p>		
概要	<p>内視鏡外科手術は従来の開腹手術と異なり腹部や胸部に数箇所小さな穴を開けて、腹腔鏡で体腔内を見ながら、鉗子や電気メスで施術する新しい手術である。外科治療の侵襲性を大幅に低減し、同時に患者のQOL (Quality of Life: 生活の質) を大きく向上できるのが特徴である。しかしその一方で内視鏡外科手術は術者に負担が大きい手術であり、一定のトレーニング無くしては実施することが困難な難しい手術であるとも言える。</p> <p>そこで本実習では内視鏡外科手術シミュレータを用いて、内視鏡外科手術の特徴(メリット・デメリット)を実習を通じて学ぶことを目標とする。</p> <p>また、近年では内視鏡外科手術のデメリットを克服するために、手術支援ロボットである“ダヴィンチ”が全国で導入されている。本学はいち早くロボット支援手術システムを導入し、成果を上げつつある。そこでロボット支援手術シミュレータを用いて、ロボット支援手術の(メリット・デメリット)を実習を通じて学ぶことを目標とする。</p>		
到達目標	<p>内視鏡外科手術の特徴について説明できる</p> <p>内視鏡外科手術のスコピストの役割を説明することができる</p> <p>内視鏡下縫合結紮の手順を説明できる</p> <p>ロボット支援手術の特徴について説明できる</p> <p>シミュレータを適切に安全に操作することができる</p>		
講義日程	小グループ単位の実習となるため、日程は学生ごとに異なる。 別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	病気等の理由で予定された実習に参加できなかった場合は、追実習を計画する。		
評価項目	実習態度により評価する		
評価法			
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 特になし		

